



こーひーぶれいく

北へ。

小川美香子

Ogawa Mikako

人は思い悩むと北へ向かうようである。感染症も落ち着いてきたある夏の週末、無性に北へドライブしたくなり、とりあえず1人、札幌北インターから旭川方面へ向かった。途中、深川ジャンクションで西（留萌方面）へ行くか東（旭川方面）へ行くか一瞬迷ったが、ここは海でしょと西へ。人は思い悩むと海も見たくなるようである。ちなみに、深川～留萌間にある北竜町はひまわりで有名であり、辺り一面のひまわり畑は圧巻である。ただ、この時は全くひまわりの気分ではなかったため素通りした。

さて、高速道路を終点留萌で降り、そのまま道なりに国道を進むと自然と北へ向かうことになる。進行方向左側には日本海が広がり、絶景ドライブが始まる。この石狩（小樽という説もあり）から稚内までの日本海沿いの道は「オロロンライン」と呼ばれる。オロロンとは海鳥の名前で、その鳴き声がオロロンと聞こえるらしい。

留萌から20 kmほど北へ進むと、道の駅「おひら鯨番屋」が見えてくる。積丹半島から小平町あたりまでは、昔、ニシン漁で栄えており、道の駅には隣接して重要文化財の旧花田家番屋がある。にしん親子丼を食べ満足したところで、そろそろ現実に戻ろうかと帰路につくことも考えたが、もう少し進むことにした。

北へ進むほど車通りが少なくなる。むしろ、バイクの集団が増えてくる。海を見ながら100 kmほど走りふと気づくと、海の中に山が見えてきた。利尻富士である。初めて見る利尻富士に、こんなところまで来てしまった感。そして、こうなったらもう稚内まで行ってしまえと、稚内で一泊することに決めた。

このあたりまでくると本当に何も無い。どこまでも草原（サロベツ原野）が広がっている。空と草原と道と海。日本とは思えない景色である。草原の中には時々風車群が現れる。オトンルイ風力発電所の風車群、映えスポットである。

そのままグングン北へ走りノシャップ岬へ到達し、イルカのモニュメントと写真を撮った後、もうこのまま行ってしまおうと宗谷岬へ。朝、札幌を出たときはこんなところまで来るつもりはなかったのに、最北端まで来てしまった。岬を見下ろす丘の上（宗谷岬公園）には、サハリン43 km、石垣市2,849 kmとある。ロシアが見えないかなと目を凝らしたが、見えなかった。天気の良い日には見えることもあるらしい。宗谷岬から内陸へ入った宗谷丘陵にはたくさんの宗谷黒牛が放牧されている。丘陵に高い木はなく、ほとんどが草原である。その草原の丘には風車群も見える。これぞ北海道らしい景色と言う人も居るが、北海道だってこんな景色はめったにない。さらにこの丘陵には、人気の映えスポット、白い道がある。2011年に産廃として捨てられるホタテの貝殻を砕いて敷き詰めて作られた、比較的新しい観光スポットである。

さて、稚内に戻り稚内駅周辺をふらふらしていたら、駅前広場で野生のエゾシカの親子に遭遇した。札幌駅にシカは居ない。さすが最北の鉄道駅である。翌日は北防波堤ドーム、稚内公園の氷雪の門を見て周り、ノシャップ岬で絶品のうに丼を食べ、結局私は美味しいものを食べれば幸せになるんだなと機嫌よく帰路についた。

なお、帰りは留萌から高速道路に入らず、そのまま海沿いを南下し札幌まで帰ることにした。日本最北の酒蔵、増毛町の国稀酒造に寄るためである。夏限定かつ蔵元限定の「群竹」を手に入れ、今日のアテは何にしようかと出発した時の悩みとは違う悩みを抱えることになったが、皆様も思い悩んだら、是非北へ向かってみてください。

（北海道大学 大学院薬学研究院）